

2014 年度
徳島大学情報センター
自己点検・評価報告書

2015 年 3 月 3 0 日
情報センター 自己点検・評価委員会

教員の自己点検評価報告書

所属部署	情報センター
氏名	上田哲史
職位	教授・センター長
学内兼務先	工学部知能情報工学科・大学院先端科学技術教育部
専門分野	非線形工学・情報セキュリティ政策

1. 業務

● 目標・計画

- ・センター内事務室の安定運用管理
- ・各種人事の進捗管理

● 業務実績のサマリ

- ・2014年春に設置された事務室について、配置や分担を配慮するとともに、事務情報部の従前の業務の処置を行った。事務部の情報システムに関する窓口業務を整理した。
- ・特任教授、特任助教に振替えられていたポストを定員教授、助教に戻すよう執行部と交渉し、どちらも受け入れられた。また、SE業務の年限延長を交渉し、年度毎更新契約を3年契約へと変更を果たした。さらに、欠員だった技術員ポストを1つ、来年度以降に復活させる交渉を行い、果たした。

● 自己評価

ほぼ目標を果たしたと思われる。

2. 教育活動

● 目標・計画

- ・2014年度はじめての情報リテラシー科目における情報セキュリティ教育の実施
- ・兼務先学部・大学院教育の実施

● 担当科目

- ・全学：情報科学入門（前後期3コースへの実施）各90分初回のみ、情報科学入門（前期，工学部夜間主コース，50名受講）
- ・知能情報工学科：電気回路及び演習（前期3単位80名受講），電子回路（後期2単位，70名受講），数値計算法（後期2単位，10名受講），知能情報工学セミナー（前期2単位，10名受講）
- ・大学院先端技術科学教育部：複雑系システム解析特論（前期2単位，80名受講），非線形システム解析特論（前期2単位）

- 自己評価

講述においては丁寧な説明に心がけたが、受講者の成績はどれも芳しくなく、成績上位と下位に分布が別れ、いわゆる二極化が進んでいる。7年ほどは内容の程度を下げているため、受講者のレベル、もしくはモチベーションが下がって来ていると考えられる。よって演習のやり方を検討し、受講者の学習を確実にし、内容の理解へと導く必要がある。

3. 研究活動

- 目標・計画、研究課題

- ・ SUM研究室の研究進捗

- 研究内容のサマリ

- ・ 大学院生・学部生の研究指導に従事した。

- 外部資金

- ・ 学術振興会科学研究費、基盤研究(C)代表、しきい値の変分を利用したハイブリッドシステムにおける周期解の設計とその応用、2014年度 160万円。

- ・ JST 革新的研究開発推進プログラムImPACT, 分担・新規、量子人工脳を量子ネットワークでつなぐ高度知識社会基盤の実現、費用未確定

- 所属学会

- ・ 電子情報通信学会（シニア員、NOLTAソサイエティ運営委員会委員、非線形問題研究会専門委員会顧問）

- ・ IEEE (Senior member, CASS Shikoku Chapter Chair, CAS Nonlinear Circuits and Systems technical group member)

- ・ 信号処理学会（正会員、論文誌副編集長、NCSP運営委員会委員）

- ・ 情報処理学会（正会員）、計測自動制御学会（正会員）、可視化情報学会（正会員）

- 業績一覧（センター内の共著者の分を除く）

著書

- ・ K. Aihara, J. Imura and T. Ueta (eds), Analysis and Control of Complex Dynamical Systems, Springer, Tokyo, 211 pages, Mar. 2015. ISBN: 978-4-432-55012-9

- K. Fujimoto, T. Yoshinaga, T. Ueta and K. Aihara : Parametric Control to Avoid Bifurcation Based on Maximum Local Lyapunov Exponent, **Chapter 5**, pp. 49—56.

- D. Ito, T. Ueta, T. Kousaka, J. Imura and K. Aihara : Threshold control for stabilization of unstable periodic orbits in chaotic hybrid systems, **Chapter 6**, pp. 57—76.

- M. Kobayashi, T. Ueta and K. Aihara : Feedback control method based on predicted future states for controlling chaos, **Chapter 9**, pp. 109—120.

学術論文

1. D. Ito, T. Ueta, T. Kousaka, J. Imura and K. Aihara : “Controlling chaos of hybrid systems by variable threshold values, ” International Journal of Bifurcation and Chaos, Vol. 24, No. 10, 1450125, 12 pages, October 2014. DOI: 10.1142/S0218127414501259
2. 刀根 佑輔, 麻原 寛之, 伊藤 大輔, 上田 哲史, 合原 一幸, 高坂 拓司 : “区分非線形離散時間力学系における局所的分岐点の計算法, ” 電気学会論文誌, Vol.134-C, No.5, 729～736頁, 2014年. DOI: 10.1541/ieejieiss.134.729
3. A. Maki, N. Umeda and T. Ueta: “Melnikov integral formula for beam sea roll motion utilizing a non-Hamiltonian exact heteroclinic orbit: analytic extension and numerical validation, ” Journal of Marine Science and Technology, September, 2014. DOI: 10.1007/s00773-013-0244-z
4. A. Maki, N. Umeda, R. Martin and T. Ueta: “Analytical methods to predict the surf-riding threshold and the wave-blocking threshold in astern seas, ” Journal of Marine Science and Technology, 2014. DOI: 10.1007/s00773-014-0257-2

国際会議論文

1. Y. Miino, D. Ito and T. Ueta : “Bifurcation analysis of coupled Izhikevich neuron model with an external periodic force, ” Proc. NOLTA2014, pp. 807—810, Luzern, Sep. 2014.
2. S. Mano, D. Ito and T. Ueta : “Pseudo periodic orbits and their stabilization, ” Proc. NOLTA2014, pp. 775—778, Luzern, Sep. 2014.
3. K. Hishikawa, D. Ito and T. Ueta : “Bifurcation Analysis of Coupled Dictyostelium Oscillators, ” Proc. NOLTA2014, pp. 419—422, Luzern, Sep. 2014.
4. D. Ito and T. Ueta : “Border-collision bifurcations for the mathematical model of the TCP-RED, ” Proc. NOLTA2014, pp. 779—782, Luzern, Sep. 2014.
5. Y. Miino, D. Ito, and T. Ueta: “Bifurcations on the Forced Alpazur Circuit,” Proc. of NCSP2015, pp. 158—161, Kuala Lumpur, Mar. 2015.
6. D. Ito and T. Ueta: “Stability Control with a Threshold Value of the Stepping Motor,” pp. 397—400, Kuala Lumpur, Mar. 2015.
7. K. Hishikawa, D. Ito, and T. Ueta: “Bifurcations and Phase Differences of Nonlinear Coupled Dictyostelium System,” Proc. of NCSP 2015, pp. 401—404, Kuala Lumpur, Mar. 2015.

8. S. Mano, D. Ito, and T. Ueta: “Circuit Implementation of Controlling Chaos Using Pseudo Periodic Orbit,” Proc. of NOLTA 2015, pp. 405—408, Kuala Lumpur, Mar. 2015.

招待講演

・上田哲史, “マネジメントシステムの情報セキュリティ版がもたらすもの—信頼? 姿勢? 安心?” 富士通サイエンティフィック研究会, システム技術分科会 2014年度第1回会合, 今求められる新たなセキュリティ対策—訓練と保険—, 40分, 汐留シティセンター, Aug. 25, 2014.

その他

研究会発表 2 件

- 自己評価

SUM研の研究テーマ（フィールド情報学・情報システム運用応用）に関してその推進を試みたが、研究室の他の教員が論文等を上げているものの、当初期待していた学生による成果はなかなか上がらなかった。原因としては学生の就職活動に多く時間が割かれたこと、不十分な進捗管理が挙げられる。次年度はこれらの事項に留意したい。

4. 社会貢献

- 目標・計画

- ・地域貢献関係の業務の実施

- 活動内容サマリ

- ・自治研修センター・情報技術支援講座, 情報センター3F, 48名受講, 6 時間, 2014年10月25 日.

- ・徳島県警・ネットウォッチャー, 活動協力

- ・徳島県オープンデータポータルサイト構築に係る業務委託事業選定委員会委員, 2014年6月.

- ・徳島県, 防災拠点情報ネットワーク災害対策強化事業(庁内クラウド構築等)に係る業務事業者選定委員会委員, 2014年5月～8月.

- ・とくしまOSS協議会, 監事, 会計監査報告, 2014年度.

- ・徳島県医療ビッグデータ分析システム構築業務委託事業者選定委員会委員, 2015年2月～3月

- 自己評価

大学を通じた地域貢献を検討しているため、表立った活動は今年度は活発ではなかった。

5. 総括

マネジメント業務に偏向しているため、教育・研究とのバランスを取る必要がある。

教員の自己点検評価報告書

所属部署	情報センター
氏名	松村 健
職位	特任教授
学内兼務先	
専門分野	情報学 (Informatics), 医療情報 (Medical informatics)

1. 業務

● 目標・計画

・2014年度より「情報センター」と改称をし、旧情報部の事務職員も合流。教員・職員・SEによる教職協働に取り組み、学内情報基盤に関するワンストップの中心的部門として、学内に認知され始めた情報システムサポート体制の一層のサービスの充実、情報化の推進を図り、加えて地域連携等、幅広い新たなミッションにも取り組んだ。

● 業務実績のサマリ

1)	包括ソフトウェア更新・運用	仕様書作成, 見積り, 渉外, ダウンロード環境整備, DVD販売商流調整等, 調達業務関連
2)	情報基盤システムの管理・運用	ICTサービス部門スタッフの管理・調整 ミニセミナーや説明会の実施/支援 個別システム(メール転送システム・メールリ ングリストサーバ構築, アンケートシステム 構築支援, 大学ホームページ運用支援, 病院 メールサーバ移行支援等) 上流工程支援/及 び設計作業, 開発導入, リハーサル等支援 ICカード導入検討/運用設計/仕様書作成, WGにより各部門の意見取りまとめ=>提 案説明, 予算申請まで
3)	コールセンター運用	ICTサービス部門スタッフの管理・調整 個別重要案件対応, 実績管理
4)	リスク分析作業	ICTサービス部門スタッフの管理・調整
5)	広報	季刊誌, ウェブコンテンツ, ホールの広告コ ンテンツ編集企画

6)	情報資産管理	ICTサービス部門スタッフの管理・調整
7)	設定管理, IPアドレス管理, FAQ対応, 相談対応, アカウント管理, メール管理, 障害対応	ICTサービス部門スタッフの管理・調整 個別にクレームや説明会の対応等 その他, 各部局技術支援 (ML作成支援等)
8)	正常性管理	監視作業に関しICTサービス部門スタッフの管理・調整
9)	部局ネットワーク構築支援/管理代行	無線LAN構築支援など
10)	部局サービスの集約化・ハウジング	ウェブページ移動, ハウジング業務 仮想化基盤環境サービス提供 各部局の支援と, 外部業者との交渉
11)	地域社会貢献	総務省共催: 徳島ICT研究協議会企画, 講演実施 大学生協の新入生向け地域の社会人経験者講演の企画運営 徳島県警・ネットウォッチャー等協業
12)	各種ログ・アラート取得, 連絡, データ提供	ICTサービス部門スタッフの管理・調整
13)	ISMS: 環境改善	ICTサービス部門スタッフの管理・調整 ICカード鍵, クリアデスク, クリアスクリーン
14)	ソフトウェアライセンス管理	ICTサービス部門スタッフの管理・調整 MS包括, Adobe, Justsystem等
15)	情報セキュリティ監査の実施	ICTサービス部門スタッフの管理・調整
16)	リスク対応計画の実施	大学全体のBCP等との整合性の検討
17)	BCP実装	BCPメール対応 ・学生/教職員向け安否確認設計作成及びリハーサル支援 ・その他センターBCP対応策作成 etc.
18)	個別部局ネットワークのセキュリティ対策	ICTサービス部門スタッフの管理・調整 各部門への個別説明, 調整
19)	情報セキュリティ対策・運用管理・ISMS管理	ICTサービス部門スタッフの管理・調整

- 自己評価

- Ⅲ

- 【判断理由】

- ・教員・職員・SEによる教職協働に取り組みも、事務所リニューアルや、テレビ会議による朝会開催など、混乱なく移行を行えた
 - ・新システム導入の3年目にあたり、新メールへの最終移行等、一部のユーザからの激しい抵抗もあったが、結果的には大きな障害なく過去の遺産を整理し、セキュリティで守られたシステム環境にリニューアルできた
 - ・ICカード導入検討～予算申請、BCP安否確認システム運用テスト等、学内システムの検討・設計構築の成果があった

2. 教育活動

- 目標・計画

- ・4月/10月 新入生への情報システム教育

- 担当科目

- ・全学：情報科学入門（前後期3コースへの実施）各90分初回のみ

- 教育内容

情報科学入門：新入生向けセキュリティ教育，教育システム利用教育

- 自己評価

- ・Ⅲ

- 【判断理由】

コミットされている範囲は，・年2回の新入生向けセキュリティ教育/教育システム利用教育，・新システムに関する教職員/学生向けのセミナーと周知活動，と狭いが，その範囲でのミッションとしては，十分機能したと思われる．

3. 研究活動

- 目標・計画，研究課題

- ・地方創生関連において，特に人口問題に関して若者の動態等を調査し，それに対する対応策の検討を行う

- 研究内容のサマリ

- ・若者の動態調査（論文，自治体，厚労省等）及び意識調査（書籍，リクナビアンケート等）
 - ・ICT（SNS等）の利活用による就活支援等で，若者の県外流出を減少させる等の手法の検討

- 外部資金

- ・取得なし
- 所属学会
 - ・ 情報処理学会
 - ・ 日本医療情報学会
 - ・ 社会情報学会
- 業績一覧（センター内の共著者の分を除く）
 - ・ 医療情報技師取得

著書

なし

学術論文

1. 松浦 健二, 上田 哲史, 佐野 雅彦, 関 陽介, 松村 健, 八木 香奈枝：徳島大学における情報システム BCP および 非常時のワイヤレスアクセスラインの整備, 学術情報処理研究, Vol.18, No.18, 99～107頁, 2014年. (CiNii: 40020248257)

国際会議論文

なし

招待講演

なし

その他

- ・ 寄稿 ：総務省四国総合通信局 （有識者からのメッセージ）

「ICTと地域創生く地域企業をじっくりとSNSでマッチング」

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/shikoku/message/column08.html>

- 自己評価

II

【判断理由】

地方創生に関する「人口流出」に関し、論文等何らかの成果に纏めあげたかったが、そこまでの探求が出来ておらず、総務省ホームページへの寄稿しか成果がなかった。

4. 社会貢献

- 目標・計画

今般、国立大学は地域の情報発信基地（リージョナルセンター）としての役割を要求されており、本センターとしても地域の組織（自治体・県警・各種団体）と協業し、ICTを活用した地域支援を継続している。

● 活動内容サマリ

- ・ 県警とセキュリティ啓蒙/情報犯罪監視支援（ネットウォッチャーボランティア活動）
- ・ 徳島ICT推進協議会（総務省四国情報通信局と共催）
（11/27 : ICT利活用による徳島の活性化を考えるセミナー）
- ・ パソコンキャリアアップ講座 生協との共催で企画/講師手配
（6/23～26 地域で働いている社会人の方の経験談講演）

● 自己評価

Ⅲ

【判断理由】

今年度、徳島ICT推進協議会は総務省との共催も二回目となり、各回とも100名を越す集客で、参加されている方々からも評価を頂いており、総務省からも継続をおねがいされている。情報センターとして社会貢献が直結する様な活動が困難な中、「ICTを活用した地域創生」という認識の啓蒙は徐々に拡散できていると思う。

今後とも、政府/県庁/自治体/企業団体/NPO等のコネクションの幅を広げ、COCとしての活動の幅を広げていく。

5. 総括

主たるミッションである、教育系システムやコールセンターの安定稼働、さらに今年度からは元情報部の事務方との協業の起ち上げで特に大きな混乱を招くこと無く円滑に組織改訂も行え成果があったと思う。

その他、各部局への支援作業も多岐に貢献していることもあり、情報センターの大学全体への影響力と、組織としての重要性が増してきている。

その他、教育システムの安定稼働や統括メールサーバの移行も山を越え、一部を除き概ね本センターに対して良好な評価が浸透してきていると感じる。

本センターはここ3～4年で大学の内外から情報センターとしての評価が急速に向上したが、今後はさらに、学部新設・ICカード導入・大学広報戦略等々重要な役割を担うものとなると思料する。

以上

教員の自己点検評価報告書

所属部署	情報センター
氏名	佐野 雅彦
職位	准教授
学内兼務先	工学部知能情報工学科・大学院先端科学技術教育部
専門分野	コンピュータアーキテクチャ, 情報システム

1. 業務

● 目標・計画

- ISMSの更新と,ISO/IEC 27001:2013 JISQ27001:2014への対応（新規格への移行）
- 情報センターISMSの適切な運用
- 徳島大学の情報セキュリティポリシーに関する助言型内部監査の実施
- 徳島大学情報セキュリティポリシーの改定
- 担当する情報システムの運用・管理

● 業務実績のサマリ

- 情報センターのISMSを2015年1月13日～15日の更新審査を受審し，3月9日付けで更新された。
- ISMS更新審査時に，「規格要求事項に適合し有効に実施されている判断」と評価された。（ISMS更新審査報告書より）
- 平成24年度は，学内6部局等について助言型内部監査を実施した。
 - ✧ 総合研究支援センター 動物資源研究部門
 - ✧ 歯学部歯学科
 - ✧ 工学部建設工学科
 - ✧ 工学部光応用工学科
 - ✧ 疾患プロテオゲノム研究センター
 - ✧ 国際センター
- 徳島大学情報セキュリティポリシーを10月に改定した。
- 対外ネットワーク管理（Firewall等）
- 担当サーバの管理

● 自己評価

- 最大事項である、ISMSの3年目の更新審査及び新規格への移行を実施できた。新規格への移行は、策定済みの主な規定文書（21の規定書及び方針文書）の改定と関連する15の帳票文書を改定し、更新審査にて適合判定を受けた。
- 平成24年度で3年目となった学内部局等への助言型内部監査を、予定通り実施し、各部署に結果を送付した。一部の部局では既に対応が実施されており、助言内容が有効に活用されたことが確認できた。
- 情報センターISMSの運用は、ISMSの更新による作業のため若干遅延気味であったが、予定通り、2回のPDCAサイクルの実施（有効性評価、内部監査、マネジメントレビューを含む）することができ、幾つかの課題を改善することもできた。これは、ISMSの更新審査において評価された。
- 懸案だった、徳島大学の情報セキュリティポリシーの改定案が、10月の情報戦略室会議で承認された。今回の改定では、情報セキュリティポリシーの運用活動がPDCAサイクルであることの強調と、各部署等においてもPDCA活動を強調するための変更を主としている。
- 担当システムにおいては、FW装置の不具合を除き、概ね、重大なインシデントもなく、運用を行った。なお、不具合が発生しているFW装置については、業者と交渉し、装置のモジュール交換を予定している。なお、Cisco UCSによる仮想化基盤を活用し、物理的に老朽化したサーバや、古いOSやアプリケーションを含むサーバの更新を仮想化基盤上で実施し、物理サーバを削減した。

2. 教育活動

● 目標・計画

昨年度の授業評価アンケートや授業時の反省点等を踏まえ、次年度の教育内容に反映する。また、全学共通教育で実施している新入生向けの情報セキュリティに関するリテラシー教育（1コマ）では、昨年度実施したアンケート結果（約1200名分）を反映して改善をする。

- ・学内構成員に対する情報セキュリティポリシー教育
- ・兼務先（工学部知能情報工学科/大学院先端技術科学教育部）における教育活動
- ・共通教育科目（情報科学）の一部負担

● 担当科目

- ・「コンピュータアーキテクチャ／計算機アーキテクチャ」、工学部知能情報工学科、3年生、前期、77名/14名

- ・「システム設計及び実験」，工学部知能情報工学科，3年生，通年，81名，
（分担：平成26年度運営委員長）
- ・「情報科学」，全学共通教育センター，1年生，前期，（分担），50名
- ・「知能情報システム工学輪講及び演習」，先端科学教育部博士前期，1年生，後期（分担）
- ・「情報科学入門」，（前後期3コースへの実施）各90分初回のみ

● 教育内容

- ・コンピュータアーキテクチャ/計算機アーキテクチャ：

ノイマン型のコンピュータの基本概念と，各種の方式の歴史を踏まえた上で，計算機本体を構成する基本アーキテクチャを講義する．また，高性能化のための各種方式について講義し，計算機の将来について議論する．

- ・システム設計及び実験：

完全自律型ロボットの設計と製作をととして，ハードウェアやそれを駆動するソフトウェアに関する基礎知識・要素技術を講義・実験する．前期は個別実験を中心とし，後期は3人1班としたグループワークを中心としてロボットの設計と製作を行う．最終コンテストとして，これらロボットによるシーブドッグ競技を開催し，各ロボットの評価を行う．

- ・情報科学入門：

大学内情報システムや情報セキュリティについて簡単に講義．

● 自己評価

工学部の講義については，授業評価アンケート結果を参考にして改善に取り組んでいるが，内容的に整理すべき点もあり，継続的な改善が必要である．また，新入生向けの情報科学では平成25年度のアンケート結果を踏まえ講義内容を見直し，ある程度の反映できたと考える．

3. 研究活動

● 目標・計画，研究課題

- ・ 情報システムの効率化手法の研究
- ・ ISMSを含む情報セキュリティ改善を図る手法の研究
- ・ コンピュータアーキテクチャに関する手法の研究

● 研究内容のサマリ

- ・ 情報システムの効率化手法の研究

情報システムの効率化及び運用の効率についての研究である．平成26年度では，Firewall（FW）のルール管理に関する効率化についての研究を，博士前期過程の学生により，研究



を行った。これは、FWルールを可視化することにより、ルールの点検やインシデント等における確認の効率化を図るためのものである。

- ・ ISMSを含む情報セキュリティ改善を図る手法の研究

情報センターのISMSの運用事例を基にして、ISMS及びISMSの運用をととして情報セキュリティの改善を図る手法、方法論等、実践論的内容による研究である。平成27年3月9日には、ISMSの新規格の下で更新（取得後3年経過）した。

- ・ コンピュータアーキテクチャに関する手法の研究

コンピュータを構成方式（アーキテクチャ）について、ハードウェア寄りの視点で研究を行っている。近年はFPGA（Filed Programmable Gate Array）を用いた試作や教育への応用方法について研究を行っており、平成26年度では、命令セットにMIPS-Iを用いた教育及び自己学習向けのCPUアーキテクチャについて研究・開発を行った。

- 外部資金

該当なし

- 所属学会

- ・ 情報処理学会（正員）
- ・ 電子情報通信学会（正員）
- ・ IEEE

- 業績一覧（センター内の共著者の分を除く）

著書

該当なし

学術論文

1. 佐野 雅彦, 八木 香奈枝, 上田 哲史：徳島大学情報センターにおけるISMSの効果, 学術情報処理研究, Vol.18, No.18, 90-98頁, 2014年.

国際会議論文

該当なし

招待講演

該当なし

その他

1. 松田 基希, 佐野 雅彦 : ファイアーウォールルールの可視化に関する研究, 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, (巻), (号), 259頁, 2014年9月.
2. 立井 宏明, 上田 哲史, 佐野 雅彦, 松浦 健二 : PC上の作業ログを活用した学生支援システム, 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, 342頁, 2014年9月.
3. 中屋敷 義浩, 上田 哲史, 佐野 雅彦, 松浦 健二 : スケジューリングを鑑みたイベント情報共有システム, 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, 339頁, 2014年9月.
4. 尾方 裕一, 上田 哲史, 松浦 健二, 佐野 雅彦 : 時系列分析手法を用いた端末利用予報, 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, 330頁, 2014年9月.
5. 関 陽介, 松浦 健二, 佐野 雅彦, 上田 哲史 : 属性管理とセキュリティレベルの多重化について, 情報・システムソサイエティ特別企画 学生ポスターセッション予稿集, 119頁, 2014年3月.
6. 関 陽介, 松浦 健二, 上田 哲史, 佐野 雅彦 : 徳島大学における学認利用申請システムの開発と運用, 第18回学術情報処理研究集会発表論文集, 51~56頁, 2014年9月.
7. 八木 香奈枝, 佐野 雅彦, 松浦 健二 : 有線ネットワーク及び仮想化基盤設備の整備, 第26回 情報処理センター等担当者技術発表会 報告集, 74~75頁, 2014年8月.

● 自己評価

ISMSの3年間（ISO取得準備段階から含めると約4年間）の運用の結果を、NIPCの論文として発表できたことは、情報センターの業務活動の結果として自己評価できる。また、他の研究内容についても、所属研究学生をとおして学会発表できたことも評価できる。ただし、改善課題や研究課題も残されており、継続的に研究を進める必要があると考える。

4. 社会貢献

● 目標・計画

- ・情報セキュリティ活動やISMS活動の支援や事例照会

● 活動内容サマリ

- ・NIPCにおいて情報センターのISMS活動状況を事例紹介した。

● 自己評価

本年度は、情報センターのISMS更新に注力したため社会貢献活動は十分できなかったが、ISMSの運用状況をNIPCで発表できたことから、ある程度の貢献はできたと考える。

5. 総括

本年度は、ISMSの有効期限（取得後3年）の年となり、ISMSの更新とISMSの規格改定に伴う新規格への移行を同時に実施した。当初予定したスケジュールを大幅に短縮するため、労力の大半をISMSの更新に要したが、幸い、ISMSの新規格での更新は無事完了し、新たなISMSによる運用を開始することができた。一方、平成22年度から実施している、学内の部局等を対象とした助言型内部監査は、ほぼ、計画どおり実施でき、該当部局へフィードバックを行った。また、懸案であった情報セキュリティポリシーを2年ぶりに改定できた。研究活動においては、ISMSや情報セキュリティポリシーへ多くの時間を割いたため進捗不十分となってしまったが、一定の成果は出せたと考える。

教員の自己点検評価報告書

所属部署	情報センター
氏名	松浦健二
職位	准教授
学内兼務先	工学部知能情報工学科・大学院先端科学技術教育部
専門分野	マルチメディア応用

1. 業務

● 目標・計画

- ・ BCP/DRに関するシステム訓練の実施，残課題の抽出
- ・ 仮想化基盤への重要サーバの移設・集約
- ・ 学外を含む学習支援・連携機能強化
- ・ コンピュータシステム利用状況データの収集
- ・ コンピュータシステムの検討ワーキング立ち上げ

● 業務実績のサマリ

・ BCP/DRのシステム訓練については，広域無線・衛星通信を利用した無線系でのインターネットへのユーザアクセスの実施手順を確認し，実際に概ね訓練の当初計画通りであった。しかし，一部学内向けのアクセスに不具合が確認されたため，訓練後に修正を入れることとなった。また，災害時には特に可用性が重要となる公式ホームページに関しても，災害による常三島キャンパスへの有線ネットワーク利用不可を想定し，バックアップサーバへの切り替え訓練を実施した。これも手順通り概ね進めたが，新蔵キャンパスでの運用においては一部想定していない状況が発生し，手順書の改定等を実施することとなった。これらは，継続して実施したいと考えている。また，残課題が一部残っているため，これについては平成27年度以降に実施予定である。

・ 仮想化基盤は，全学的なサービス開始を行い，委員会での報告だけでなく，リーフレット（愛茶便）を通じて全学広報を行った。H26開始サービスとしては，まだリソース面での充足状況は余裕があるが，引き続き広報活動を展開し，災害等への耐性を高めたいと考えている。

・ 学習支援としては，これまで，四国8大学（e-Knowledgeコンソーシアム四国関係）での単位互換等のシステム支援を実施してきたが，これに四国の国立大学法人5大学連携の枠組み（知のプラットフォーム形成事業）への支援が加わり，これらには，システム専門委員として，技術的な支援や委員会活動に参加している。さらに，総合教育センターのICT活用教育部門の教員として，全学的なポートフォリオシステムの導入や技術支援に貢献した。



・コンピュータシステムの利用状況データを H26 の前期終了時点と、後期終了時点で実施したため、次期コンピュータシステムの検討に繋げる予定である。

・コンピュータシステムのワーキンググループ設置については、情報戦略室にお諮りし、設置が認められたため、組織構成を検討し、年度末にはメンバへの内諾取得を実施した。

● 自己評価

情報センターに改組された初年度として、情報統括部門員の一教員としての活動を実施したが、どちらかといえば、それまでの組織にて実施してきた業務を部門再編となった後も、主体的に実施してきたと言える。目標に対しての活動としては概ね達成していると言えるが、災害対策等は継続的に進める必要があり、かつ残課題もあるため、今後も組織として進めていかねばならないと考える。

2. 教育活動

● 目標・計画

- ・授業評価アンケートにて意見の出された項目についての対策をとる
- ・授業内容を毎年少しずつ見直して改善する

● 担当科目

- ・全学：情報科学入門（前後期 3 コースへの実施）各90分初回のみ
- ・夜間主 1 年生：情報科学入門（3 教員によるオムニバス形式）（前期 2 単位53名受講）
- ・知能情報工学科：コンピュータシステム管理（前期 2 単位24名受講）、情報セキュリティ（後期 2 単位，84名受講）、システム設計及び実験（通年3単位81名受講）
- ・大学院先端技術科学教育部（博士前期）：知的CAI（前期2単位33名受講）、知能情報システム工学輪講及び演習（通年3単位54名受講）
- ・大学院先端技術科学教育部（博士後期）：知能情報システム設計特論（後期 2 単位 2 名受講）

● 教育内容

シラバス記載内容に沿った講義・演習を実施している。情報系科目の基本的な内容を扱い、初年時教育としての情報科学、専門科目では、情報セキュリティやコンピュータシステムサービスに関する授業を担当している。大学院では、学習支援システムや知的な情報システムに関する内容を扱っている。

● 自己評価

・授業評価アンケートでは、過年度に特に大きな改善を要する意見は出されていなかったが、授業の運用として、試験問題における説明問題を増やす予告などを通じて、履修者の学習支援の改善を図った。

3. 研究活動

- 目標・計画, 研究課題

- ・ 人間の学習を支援する一環として, 身体運動スキルを対象とした研究を進める
- ・ 他教員との共同研究室 (SUM研究室) での活動を強化し, 成果公開に努める

- 研究内容のサマリ

- ・ 反復運動をスキルとして捉えた際の人間の学習のモデル化と支援技術の開発を行った
- ・ 地図情報の応用や, コンピュータ利用状況の可視化・予測などの研究開発を行った

- 外部資金

- ・ 2014年度は外部資金獲得が適わなかった。

- 所属学会

- ・ 電子情報通信学会 (正員)
- ・ 情報処理学会 (正員, CLE研究会運営委員)
- ・ 人工知能学会 (正員, ALST研究会専門委員, LST特集号編集委員)
- ・ 日本教育工学会 (正員)
- ・ 教育システム情報学会 (正員, 論文誌編集委員, 第40回全国大会実行副委員長)
- ・ ヒューマンインタフェース学会 (正員)

- 業績一覧 (センター内の共著者の分を除く)

学術論文

1. 松浦 健二, 上田 哲史, 佐野 雅彦, 関 陽介, 松村 健, 八木 香奈枝 : 徳島大学における情報システム BCP および 非常時のワイヤレスアクセスラインの整備, 学術情報処理研究, Vol.18, No.18, 99~107頁, 2014年. (CiNii: 40020248257)
2. 後藤田 中, 松浦 健二, 田中 俊夫 : 動きに基づき仮想の協走者を提供するウェアラブルシステム, 教育システム情報学会誌, Vol.31, No.1, 28~37頁, 2014年. (CiNii: 40019958729)

解説・総説

1. 後藤田 中, 松浦 健二 : フィジカル・コンピューティングによる健康向上支援の先行的取り組み, 医療機器学, Vol.84, No.6, 645~651頁, 2014年12月. (CiNii: 40020305049)

国際会議論文

1. Kenji Matsuura, Yousuke Seki, Masahiko Sano and Tetsushi Ueta : Design and Implementation of Organizational Authorization for a Network Monitoring System, Proceedings of the Second International Symposium on Computing and Networking, pp.605--607, Shizuoka, Japan, Dec. 2014.

2. LKHAGVASUREN Erdenesaikhan, Kenji Matsuura, Kousuke Mouri and Hiroaki Ogata : Learning Log Dashboard: to see your own progress, Proceedings of the International Conference on Computers in Education, pp.528--532, Nara, Japan, Dec. 2014.
3. Keita Yamada and Kenji Matsuura : Design of an Environment for Motor-skill Development based on Real-time Feedback, Workshop Proceedings of the International Conference on Computers in Education, pp.799--804, Nara, Japan, Nov. 2014.
4. Shinya Yoshioka, Keita Yamada and Kenji Matsuura : Supporting system for the form improvement on rope skipping skill by image processing, 2014 IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics, pp.328--331, Kitakyusyu, Japan, Aug. 2014.

その他

1. 立井 宏明, 上田 哲史, 佐野 雅彦, 松浦 健二 : PC上の作業ログを活用した学生支援システム, 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, 342頁, 2014年9月.
2. 中屋敷 義浩, 上田 哲史, 佐野 雅彦, 松浦 健二 : スケジューリングを鑑みたイベント情報共有システム, 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, 339頁, 2014年9月.
3. 尾方 裕一, 上田 哲史, 松浦 健二, 佐野 雅彦 : 時系列分析手法を用いた端末利用予報, 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, 330頁, 2014年9月.
4. 松浦 健二 : 反復運動を対象とした身体(運動)スキル開発支援, 教育システム情報学会第39回全国大会公開フォーラム, 2014年9月.
5. 金西 計英, 松浦 健二, 高橋 暁子, 戸川 聡 : 高等教育機関における教育システムのためのプライベートクラウドの構築, 教育システム情報学会第39回全国大会講演論文集, 143~144頁, 2014年9月.
6. 吉岡 真也, 山田 慶太, 松浦 健二 : 画像処理による縄跳びフォーム改善支援, 教育システム情報学会第39回全国大会講演論文集, 387~388頁, 2014年9月.
7. 関 陽介, 松浦 健二, 佐野 雅彦, 上田 哲史 : 属性管理とセキュリティレベルの多重化について, 情報・システムソサイエティ特別企画 学生ポスターセッション予稿集, 119頁, 2014年3月.
8. 山田 慶太, 松浦 健二 : 試行間の関係性を考慮したフラフープ制御スキル開発支援環境の設計, 人工知能学会研究会資料, Vol.SIG-ALST-B402, 30~33頁, 2014年11月.
9. 関 陽介, 松浦 健二, 上田 哲史, 佐野 雅彦 : 徳島大学における学認利用申請システムの開発と運用, 第18回学術情報処理研究集会発表論文集, 51~56頁, 2014年9月.
10. 八木 香奈枝, 佐野 雅彦, 松浦 健二 : 有線ネットワーク及び仮想化基盤設備の整備, 第26回 情報処理センター等担当者技術発表会 報告集, 74~75頁, 2014年8月.

11. 山田 慶太, 吉岡 真也, 松浦 健二：動画像解析を用いた縄跳びフォーム改善支援環境の構築, 人工知能学会研究会資料, Vol.SIG-ALST-B303, 35～38頁, 2014年3月.

● 自己評価

研究成果は、以前よりも質・量とも改善しつつある。特に、共同研究室からの研究成果発表が増加している点と、情報センターとしての研究が論文につながっている点は評価できる。個人の研究においては、論文や解説記事での成果公開にとどまらず、全国大会でのシンポジウムや国際会議でのワークショップ開催などを通じた幅広い活動が展開できるようになったため、継続してこれらの活動に取り組む必要がある。

4. 社会貢献

● 目標・計画

- ・学術認証フェデレーションでの貢献を進める
- ・四国の大学連携に技術的貢献をする
- ・四国情報通信懇談会を通じた四国全体の研究活動推進に参画する

● 活動内容サマリ

- ・大学ICT推進協議会での認証連携部会副査として、イベント企画や議論に貢献した
- ・e-Knowledge コンソーシアム四国、知のプラットフォーム形成事業といった四国内の連携プロジェクトにおいて、システム専門委員としての技術的貢献を行った
- ・四国情報通信懇談会の研究フォーラム幹事として、イベントに参加し、活発な議論に貢献した

● 自己評価

社会貢献には、地域での貢献のみならず、昨今はサイバー空間での組織を跨ぐ取り組みもその一環として活発に行われている。平成26年度は、社会貢献としては積極性の面で、例年よりも活動が不足した感を覚えるため、今後もう少し社会への還元を意識した活動を展開したい。

5. 総括

平成26年度は、開祖して情報センターとなり、情報統括部門の一員としての初年度であった。業務面では、それまでの情報化推進センターからの継続業務が中心となっていたが、研究やデータ調査といった領域での活動に比重を少し移すことができたと解釈している。大学に籍を置く研究者・教育者として本来あるべき姿に近づいた感はあるが、業務としてのサービスに対する貢献を品質の面で低下させず、継続して努力したいと考える。

教員の自己点検評価報告書

所属部署	情報センター
氏名	関 陽介
職位	特任助教
学内兼務先	—
専門分野	情報システム（運用系），認証技術

1. 業務

● 目標・計画

- ・ ICTサービス部門（分室）の業務推進
- ・ 全学向けシステム等の管理，提供

● 業務実績のサマリ

- ・ 運用業務（分室業務）

分室長として蔵本地区メンバの管理，窓口業務，各種説明会（統合メール廃止，新メーリングリスト提供等），各種運用フローの作成・修正，ISMS更新審査対応等を実施した。

- ・ システム等の管理，提供

教育用システム（教務システム等）やその他システム（知プラ向け認証連携，学認システム等）の運用・保守を実施した。また統合メールサービス廃止に伴う新メーリングリストシステムの提供，UPKIサーバ証明書発行サービスの新プロジェクト移行を実施した。

● 自己評価

統合メール廃止に伴うメール移行では，Exchangeの仕様によるメーリングリスト機能の制約を新メーリングリストサービスの提供により解決することで，円滑な移行に寄与できた。UPKIサーバ証明書発行サービスは新プロジェクトに移行したが，来年度から提供が開始されるため，今後大きな費用対効果を期待できる。常三島，蔵本地区の計画停電は，発電機と切替盤の運用を定常化することで人的コストを大きく軽減し，影響システムの縮小化を実現できた。以上より，今年度も運用業務や費用・人的コスト軽減等に貢献できた。

また，今年度は集中していた業務負荷を分散させるため引継ぎを行ったが，来年度も引き続き計画的に実施する。

2. 教育活動

● 目標・計画

- ・ 情報科学入門の実施

- ・医学科、栄養学科向けメール転送説明会の実施

- 担当科目

情報科学入門（前後期 3 コースへの実施）各90分初回のみ

- 自己評価

情報科学入門は、昨年度のアナケートを参考に今年度はマルウェア感染の事例を説明することで、ウィルス対策ソフトの重要性を理解できた学生が多かった。ただしUSB等のリムーバブル機器の扱い方法が分かりにくいという意見が複数あったため、次年度では改善したい。

メール転送説明会は、ドメインの解除方法が困難であるため昨年度は一部混乱が生じたが、今年度は説明会の中でサポートすることでその解決に努めた。今後も同様の方針で説明会を開催したい。

3. 研究活動

- 目標・計画、研究課題

運用系の情報システムを研究対象として研究を行う。

- 研究内容のサマリ

・ Shibbolethはuidや氏名等の個人属性情報を管理するLDAPを参照して認可制御を行う。しかし、これらの情報は限られた管理者しか登録できず、また委員会等の補助的な属性情報は登録されないため、認可の制御範囲は限定的となる。そこで本研究では認可制御で利用できる属性情報を管理する属性管理システムを提供する。また組織単位の階層型管理手法を提案すること、信頼性等を考慮した管理者登録モデルを提供する。

・ 教職員や学生に対してアンケートを実施する場合、その手法により対象者の選択範囲や予想される回収率が決定される。そこで本研究ではアンケート対象者の活動情報から特徴を抽出することで対象者の選択範囲を具象化し、また回収率を向上しうる手法を提案する。

- 外部資金

取得なし。

- 所属学会

- ・ 電子情報通信学会（正員）
- ・ 情報処理学会（正員）

- 業績一覧（センター内の共著者の分を除く）

著書

なし。

学術論文

なし。

国際会議論文

なし.

招待講演

なし.

その他

・関 陽介, 松浦 健二, 上田 哲史, 佐野 雅彦: 徳島大学における学認利用申請システムの開発と運用, 第18回学術情報処理研究集会発表論文集, pp. 51-56, 2014.

・関 陽介, 松浦 健二, 上田 哲史, 佐野 雅彦, 尾方 裕一: 時系列データ分析による端末利用予測システム, 情報処理学会第77回全国大会講演論文集, pp. 27-28, 2015.

● 自己評価

本センターの共同研究室(SUM研)にて上記サマリで述べたシステムを構築した. 今年度は提案手法の決定, システムの構築まで完了したため, 次年度は学内システムとしての提供や論文投稿を目指す.

4. 社会貢献

● 目標・計画

・自治体や県警等の地域の組織と協業しICTを活用した地域活性化に貢献する.

● 活動内容サマリ

・徳島ICT研究協議会の開催支援

・徳島県警察ネットウォッチャー参加

● 自己評価

徳島ICT研究協議会では地元で活躍する経営者による講演や, 本学学生を交えたパネルディスカッションを実施することで, 地域におけるIT産業による地域活性化等について議論をすることができた. またネットウォッチャーでは学生が参加することで, 日常のセキュリティにおける意識向上に繋げることができたと考える.

5. 総括

今年度は業務, 研究等をバランスよく実施することができ, 定常業務や新規プロジェクトの推進により, 大学構成員の利便性向上や人的コスト・費用の削減に寄与できた. また業務の運用フローを作成することで属人化を解消し迅速な対応が可能となった.

次年度は新規プロジェクトとしてLOAの取得, Eduroam等を提供することで, 本学の認証基盤の評価向上, 無線環境の強化を目指す. また次々年度に向けて計画的に引継ぎを行う.